

創建

そうこん

巻頭言：浅里和茂・1

150号に寄せて「最後の授業」：倉田光春・2～3

150号に寄せて「日に日に新たに…～原点回帰～」

：若井正一・4～5

創建総目録 (No.121～No.150) ・6～8

2014・3・25 VOL.48 NO.5 (通巻150号)

■ 日本大学・工学部・建築学教室 ■

ソチオリンピック、ラフマニノフ、浅田真央、まるで検索キーワードのようではある。フリーの曲としてロシア出身のラフマニノフを選んだのは開催地にちなんだためでしょうが、これも演技の成功とともに選曲の妙と言えるでしょう。メダルには届かなかった競技者がこれほどまでに注目されて気の毒のような気もしますが、その後のすがすがしい笑顔に救われた気持ちになりました。実際のピアノ協奏曲2番はラフマニノフの代表作で3楽章からなる35分ほどの曲ですが、フリーの4分間だけで、すべて聞いたような気になる見事なアレンジでした。

スポーツのように勝ち負けの決着がついてしまう場面で、常に勝ち続けることは不可能です。もちろん勝ち続ける努力は必要ですが、それだけではどうにもならないことや自分ではコントロールできないことで負けてしまうこともあります。永い目で見れば負けたことも経験であり、歴史となって受け継がれなければいけないことです。例えばサッカーの「ドーハの悲劇」も歴史のひとつで、この負けがあったから海外で活躍する選手の今があるのだと思います。

1966年(昭和41年)に発刊された創建も48歳、通巻150号を迎えました。この記念号となる巻頭を任されたのは少々気恥ずかしいし、荷が重いですね。自分の手元にあるもっとも古い創建は25年前の1989年(平成元年)4月6日号、卒業生も生まれる前のもの、それ以前の学生時代のものはどうやら引越しの時にどこかに行ってしまったようです。このときの編集長はライトの研究で著名な谷川正己先生、表紙や教室ニュースのスタイルは現在と同じでB5版のサイズでした。内容も先生方の随筆や紀行文などに加え、NEC本社ビルの模型写真や郡山の建築紹介とし

てゼビオ本社ビルがあり当時の記憶を思い出させてくれます。学生も教員も今より多く、教員27名の名簿も載っていますが、現在も現役なのは倉田先生と若井先生を入れても8名になってしまいました。この1989年、20代だった私にとって歴史は遠い存在でした。

例えば鉄という素材は紀元前から使用されていましたが、鋼構造の歴史を眺めてみると史上最初の鉄橋はイギリスにある1779年のアイアンブリッジ、230年程度しか経っていません。当時のイギリスは産業革命の只中、大量の石炭を運ぶための蒸気

ラフマニノフの2番

教授 浅里和茂

機関車による鉄道を通すために丈夫な橋が必要になったのです。もちろん現在の鋼が開発される以前で性能の劣る鋳鉄によるもので、構造的に洗練されているわけではありませんでしたが、鉄による大型構造物の歴史はここから始まり、長大橋や超高層ビルへと続いていきます。この鉄と鋼による発展の歴史もヨーロッパとアメリカでは趣が異なるのが興味深いところです。

古典力学という言葉も、なにかずっしりとした歴史を感じさせます。この場合の古典とは、アインシュタインの相対性理論以前の力学で、ニュートン力学と言われたりもします。例えば日本の古典文学としての源氏物語は平安時代中期成立で特殊相対性理論が発表されたのは1905年、同じ古典でも時間スケールがかなり違います。私たちが使っているのは古典力学ですが、これで十分なのは

相対論が光速や星の質量レベルを扱っているため、建築構造をはじめ日常生活で使う単位では2つの理論の差がなくなってしまうからです。ただし、衛星からの信号を利用してG P Sは相対論的誤差の修正を行っています。でもこの古典力学に基づき改良しながら、手計算からコンピュータに代わっても、図式解法がExcelに代わっても本質は同じなのです。

私たちが果てしなく続く時間の流れのなかで生きている以上、歴史は存在して、好むと好まざるにかかわらずその中にいます。当然、歴史を知らなくても普通は全く困りませんし、過去にとらわれすぎても良いことはないのです。邪魔にさえ感じることもさえあります。大学に建築史という科目があって驚いた人もたくさんいるでしょう。工学で歴史があるのは建築だけですが、これは建築が本当は建物ではなく人間を相手にしているためだと私は考えています。何かを学ぼうとするときにそのバックグラウンドや歴史を知っていた方がより面白く学べると思うのです。同時に歴史は記録でもあり、この創建のようにその時々建築学科のありのままを文書しておく大切さは改めて読み直すと切実に感じます。そしてその時代性を残しておくのも大事だと思い、冒頭の文章を入れました。

学問としてではない歴史に意識が向いてくるのはやはりある程度の年齢からです。私の場合は織田信長の寿命を越えてからで、人はこれまで生きてきた年月と残された年月を比べ始めるころに過去を知りたくなるのだと思います。生きていくことが歴史であり、それぞれの歴史観の中で生きていく、その中には成功もあればもっと多くの失敗もあるはずで、それがすべて人生なのです。

(学科主任)

◇150号に寄せて◇

最後の授業

教授 倉田光春

ローマへの道は、AMOR。もうすぐ、節分、連れが居れば一緒に魔滅まき。それまでにと催促された原稿。書けない。創建の読者に伝えたい教授在職中の原理原則（学生の未来を拓く）と決断（情報化と国際化）、そして起した行動（英会話講座と国際工学コース）。興せず（世界から若者が集う学部）廃され廃墟となった。教授はsupervisor, そのpolicyにはdecisionが必要であり、actionにはresponsibilityが伴うもの。が、繰言、散らして仕舞え、ローマ（ROMA）への道、その逆さはアモール（AMOR）だ。

大好きな番組。あさイチ、ゲストは、いいおとこ、竹野内豊。有働さん可愛い、はしゃぎ過ぎ、みんな仮面をつけて。そんなに好きなのか。持って生まれたルックスと才能だけではなさそうだ。

見てしまった番組。ヨルダンでイラク難民を助ける日本人女性、理想は正義の味方アトム。ある時、思い立ち、夫と5歳の息子を残して、単身ヨルダンへ。マッサージで1ヶ月4万円を稼ぎボランティア。どうして夫は認めただろう。息子のことはどうする。常識では考えられない。その後、認められて王室の専属になり、王室の寄付を受けて活躍。皆から感謝される有名人。でも、騙されるから無闇に助けたりはしない。選んで援助している。生活費、治療費などなど。「今、女鼠^{ねずみ}、世界を疾^{はし}る。」昔、そんな時代があった。「鼠^{ねずみ}が江戸^{はし}を疾^{はし}り、大名^{おおだな}、大店から千両箱盗んで庶民にチャリン、どうして俺の所でないのだ、忌々しい。選んで、健気に生きる貧しい人々だけにチャリン、リン。みんなに回ってこそお金、値打ちが出るもの。

チッヤ、チッヤ、チッヤ・・・、時計の音。夢か現か、未だ暗い。今日は、最後の授業。為になる話をしたい。9月頃から、諸君は、就職活動。エントリーシートに自分のことが描けたら、いい所に就職出来るだろう。望み望まれて、それでこそいい就職、みな幸せに。リクルーターは、知りたいのだ。諸君の20年余りの経験と歴史、そしてその生き様と希望を。みんな何かしらして来たはず。自分の優れた、良いところ。劣った、補うべきところ。素直に表現して欲しい。自分自身の真の姿を知り尽くしてこそ、長所を伸ばし、短所は補いなおすことができる。そして、何かしらを社会に活かし、よい人生を歩めるはず。多くの立派な先輩がいる。自信を持って羽ば

たけ。諸君は、新人類。私の時代では考えられない新たな環境での20年余りの経験、そして、積み上げられた知識がある。私の学生時代には、コピー機、パソコン、スマートフォンなどなく、ネットで簡単に情報が得られる今と違い、情報を得るためには大変な労力と時間を要したものだ。自分の感性と感覚を信じ、古きを温ねて、よく考え、今を楽しく立派な人に、願っている。しかし、人生は因果なもの、ままならない。必ず因があり、果がある。知っていても、良い結果に導くのは難しい。この年で知る。欲、見栄、プライドなどなど。これらは決して悪いことではない。良くも悪くもなり、過ぎるからいけない。昔、理工学部の加藤渉先生が言っていた。偉い人は多々居れど、立派な人は中々いない。己を知り、力を譲る偉い人は少なく、偉い人は得てして過ぎるから立派にはなれないと。

自分のための番組。人生どうせ生きるなら、自由に、よく生きたい。幸せに生きたい。「したいことをしているのは本当の自由は得られない。自由というのは、何でもしたいことをするのではなくて、自分が本当にすべきことが出来て、してはいけないことをしないですむということ。それが自由、置かれたところで咲きなさい」というシスター渡辺和子さん。ノートルダム清心学園、理事長の年取ってわかる心の世界、清く正しく美しく。よく生きるとは、何故と問い、よく考えて、己を抑え、その不自由を乗り越えることであり、面倒なことを始末できてこそ自由人。そのためには、他人に優しく寄り添うことができるその心が必要であり、寄り添うことができ初めて自由。

暮らし向き 四季に映せよ 美しく
正しき思考 清き心に

衣食住、綺麗ではないが四季折々美しく。小中学で学んだ早寝早起き、整理整頓。今は、料理、掃除洗濯、お茶、食事、ゴミ出しなど、加わるその段取りと始末美しく。美しく暮らし、よく生きるのは修行。お茶、中国茶、紅茶にハーブ・ティー、コーヒーを美味しく、花を生け、お茶を立てるのは何時になるやら。でも、結構、教えられ、それなりに楽しめるのも皆のおかげ。うすいの、お茶のおばさん、中国茶、ハーブ・ティーのおねえさん。

珈琲屋はまなのおばさんたち、それにアキ生花店のお兄さん・・・。みんな有難う、感謝である。

気になった番組。伊集院 光の司会、シンポジオン「幸福」、名著で考える。文学：井原西鶴「好色一代男、好色一代女」。経済学：アダム・スミス「国富論」。哲学：ヘーゲル「精神現象学」。心理学：フロイト「精神分析入門」。幸不幸は心の問題。何のことはない。人間には七難八苦あり、七難即滅、七福即生を願うもの。ど

の様な難に遭いそうで、自分にはどんな苦があり、どの様なときに幸せと感じ思うのか。直面すると、つい思い願うけれど、日頃、思いもせず、考えもしない。考え、暮らしに活かしてこそ幸せに。感じてこそほんとうの幸せ。それで読み返すのは、貝原益軒の養生訓。病は気から、「喜怒哀楽」、喜べば気が緩み、怒れば気が上る。哀しめば気が消え、楽しめば気がへらずめぐる。気を和らげて平らかに、気をへらさずよく循環させる。これ気を養う道なりと。確かに、昼夜、四季折々に陰と陽があり、人の心に気がめぐる。いとをかし。

目から鱗の番組 女性理論物理学者リサ・ランドール、宇宙のドアをノックする。「大学院に入るまでとてもシャイだったのです。しかし、質問しなければ、いけなくなって、そんなことも、言っていれなくなりました。でも、質問することを怖がらなくなってから、いろんな人と議論できるようになり、講義をもっと熱心に聞くようになりました。ハーバードでは、その場でどんどん質問します。例えば、何か、ちょっと分らない時には、廊下でもミニレクチャー、どんどん質問してくれる。注意して聞いているからこそ質問が出来る。私たちもそれに答えて少しでも分かってほしいと思う。ですから、恥ずかしがっていると勉強できなくなってしまう。知識を獲得出来ないわけです。質問すること、答えること 両方メリットがあります。質問が出来るということが分かっているだけで、注意を払う様になります。教える側も一方的に話すだけだと注意散漫になってしまう。最初は、宇宙のいろんなことが好きだったのですが 次第に宇宙について学べるのが素晴らしいと感じるようになったのです。何かを学びたい、理解したいと思うことは、日本に来たら日本のことを知りたいと思うのと同じです。この好奇心 (curiosity) があるからこそ、世界も人も興味深いものになると思うのです。好奇心 (curiosity) を持ち、理解し知ることがエキサイティング (exciting) だと思ふのです。好奇心を持てば、その疑問にたいして答えがかえってくる。だから世界は素晴らしいのです。」美しく、時々、厳しい眼差しを見せる教授は、過去の実験データや論文を基に普遍的理論を導き出し未知の事象を推論。3次元宇宙の外に別次元の空間が存在する可能性を1999年に数式で示し、世界中の物理学者が驚愕。ニュートン力学では、空間の大きさを微小線素ベクトルの内積 $ds^2 = dx^2 + dy^2 + dz^2$ で計量する。時間の影響を受けるアインシュタイン4次元時空間でのこの大きさは $ds^2 = dx^2 + dy^2 + dz^2 - c^2 dt^2$ であり、博士の理論「ワープした余剰次元」では、その影響を受けて $ds^2 = e^{-k|t|} (dx^2 + dy^2 + dz^2 - c^2 dt^2) + dr^2$ (5次元) だという。これが実験で証明されればブラックホールや宇宙に漂う謎の物質ダークマ

ターなど宇宙の解明が飛躍的に進むという。

宇宙の最初、爆発のところが分かっていない。しかし、ビッグバン (Big Bang) の後のことは分かっている。爆発で、最初熱い宇宙は膨張し、だんだん冷えていった。その宇宙の膨張と膨張率、その速度、そして宇宙背景輻射は、今や高校の物理に。粒子と場の概念で進む宇宙論、でも、爆発ありきで始まる宇宙論、0と1議論と重なり、0は何、無いものを有りとする空集合、すべての0乗それは1、0の0乗は、節分の福魔滅かじり、議論が進む。細かいことがブラックボックスでコーヒー・ブレイク。

最後の授業。カーテンが薄明るい。さあ、伝えることができるかな。知って欲しい、「宇宙物理学で適用された粒子法が、我々の計算力学として構造解析に、今、利用されている。」好奇心を持てば、我々の身近にも、まだまだ未知のエキサイティング (exciting) な世界が広がっていることを。しかし、それは夢。現では、踏みとどまることが出来ず、もう、私は大学の先生ではないようだ。今日は、試験の内容、解答のし方について話をしなければ。ここまで来てしまった。黒板に、試験対策問題と公式を書き、問題の主旨とその公式、公式の内容と使い方を説明する。計算のし方を書いて見せ、これは、特定された試験問題の解答を、諸君が出すためのマニュアル (手引き)。何故そうすると解が求められるのか。それはブラックボックス、真似して計算し、答えを出しなさい。それでも、条件導入を適切にできない学生、計算がそれなりにできない学生、多々いる。君、黒板に答えを、できません。友達の君、代わりに。友達でありませぬ。でも、試験の前、「隣はみんな友達」と言うだろう。友達は大切にしなければ。いえ、できません。出来そうな子にと、指して書かせると、ほとんどがそれを写し、計算していない。合っているとは限らない。自分で計算しなさい。自分で考えて、計算し答えを出してはじめて力が付くもの。と言っても、最後にパ写である。社会に出たら、マニュアル通りにこなすことが仕事の大部分。これはその力を付ける練習だ、せめて書いたら。それでもパ写。その場限りの対処だけでは解決しない。自覚してほしい。過去に学び、考え、決断し、行動しなければ。人は皆、慣性の法則に従い現状を維持したがるもの、しかし、今がいいとは必ずしも言えない。若者は、改めることを恐れることなかれ。でも、学生だけではなさそうだ。誰でも、私もそうだ。よい人生は覚悟から、覚悟すれば生きる風景が、そしてその気が変わる。何時如何なる時でも、遅くはない。私の人生はたそがれ、でも、これからの人生の中で今が一番若い、だから、若々しく今を生きようと思う。

◇150号に寄せて◇

日に日に新たに… ～原点回帰～

教授 若井 正一

1. 序

昨年、NHKの大河ドラマで話題となった「八重の桜」は、会津出身の新島八重（旧姓、山本）を主人公にして、幕末の動乱期から明治維新後を力強く生き抜いた人物が次々に登場して、多くの視聴者に感動を与えてくれた。特に、戊辰戦争において、1千人を超える戦死者が出た「白河口の戦い」や、若き白虎隊が落城を悲観し飯盛山で自刃したことなどは、すでに語り継がれてきた史実であるが、今からわずか三世代ほど前の出来事であった。その最後の砦となった会津若松「鶴ヶ城」の西隣に会津藩士たちの学びの舎である会津藩校「日新館」があった。ここで、会津藩士は、子どもの頃から「ならぬものは、ならぬ」という「什の掟」のもとに会津魂を育んだ。「日新館」は、戊辰後に取り壊されたが、昭和62年に会津河東町に当時の建物が宿泊研修などを備えた記念館として完全復元された。その復元まもない「日新館」において、交流があった東京大学建築計画研究室と私の研究室の夏合宿を行ったことがある。昔の長屋風の部屋で教員と学生同士が建築談義で夜遅くまで酒を酌み交わしたことや、当時、東大に留学していた英国マンチェスター大学のサイムズ教授らと一緒に施設内の風呂に入った時、隣の女風呂から聞こえてくる歌声に同教授が歓喜していたことなどがとても懐かしい。

その後、県立会津大学の新キャンパスがオープンしてまもなく、設計者の岡氏らを招いて人間環境学会（会長：乾正雄）主催の見学研究会をコーディネートした際に、宿泊した東山温泉で多くの著名な研究者と私の研究室の学生が夜遅くまでカラオケに興じたことなど、会津には沢山の楽しい思い出がある。

会津との縁は、かつて会津藩の港町であった阿賀野川沿いの津川町（現、新潟県阿賀町）が母の郷里で、私もそこで生まれたことから、子どもの頃から会津に近親感を抱いていた。もしかしたら、やや頑固な私自身にも、わずかながら会津の血が流れているかも知れない。

2. 学究の道…『光陰矢のごとし』

私が本学工学部に赴任した時は、学園紛争直後の昭和44年4月であった。副手という立場であったが、歓迎会の席上、学科主任の幸田先生から私が芸術系大学出身という経歴から「学科のデザイン教育にご指導を…」と紹介いただいたことを鮮明に覚えている。当時、私は、

白河市の実家から本学へ電車通勤していたが、一番若い新米教員として、多くの学生諸君と公私にわたって交流した。私が勤務した建築計画研究室は、小林秀弥先生、大串不二雄先生、佐藤平先生らの教員と多くの卒研究生が出入りする大所帯であった。その頃、本学には大学院がなかったが、赴任まもなく、学監（学務）の小倉先生に呼ばれて別室で大学院設置に向けた文書の作成を手伝うこととなった。その後、本学の大学院設置が認可され、私学では東北地方初の大学院として大きく報道された。幸い、赴任した年に2級建築士の資格を取得できたが、学力の不足を感じて本学理工学部へ2年間異動した後、本学大学院へ進学した。大学院在学中は、日本建築学会主催の設計コンペなどに挑戦して、何度か入賞できた。また、在学中に1級建築士の資格が取得できたことで、設計の道に進むべきか、学究の道に進むべきか、大いに悩んだが、大学院修了後、昭和50年4月から本学助手に再任となり、2度目の赴任をすることになった。それから現在まで、実に39年間（副手時代を入れると43年間）の教員生活を送ることになるとは、当時は、夢にも思っていなかった。2度目に赴任して配属された研究室は、やはり赴任したばかりの大内一雄先生の人間工学系研究室であった。大内先生は、私が専任講師に昇格してまもなく他大学へ異動されたが、その間、二人三脚で様々な人間工学に係る実験や調査研究を行った。その中で、旧国鉄時代の車両近代化の研究（委員長：小原二郎）や建築設計資料集成の編纂で、銀座にあった日本建築学会の旧建築会館に何度も出張したことなどが思い出される。その後、助教授を経て、平成9年4月から教授に就いた。教授になってまもなく、工学部図書館長（6年間）、大学院専攻主任（6年間）、学科主任（4年間）と様々な役職に就いたが、常に真剣勝負で取り組んできた。その中で新講義棟（70号館）の建設は、その企画から設計、施工に至るまで建設専門委員長として奔走した。特に、現場での打合せは、校務に忙殺される中で連日のように行われた。現在、新講義棟が竣工して、本学のランドマークとして多くの学生が楽しそうに集っている姿を見ると、建設現場で連日奮戦していたことが嘘のようである。

私が、本学へ赴任して以来、研究室で指導した卒研究生と大学院生の人数は、延べ766名（学部生701名、大学院生65名）であった。この他、研究室に在籍した海外留学生は、ブラジル、アルゼンチン、ペルー、中国など多彩な顔ぶれであった。その内、女子学生の在籍数は、計173名（全体の23%）であった。中には、親子2代にわたって指導した卒研究生や、女子学生が多かったせいか、卒業後に、結婚したカップルも少なくない。私の研究室を巣立った彼らには、本学で育んだ絆（きずな）を大切に幸せな人生を歩んで欲しいと願うばかりである。



写真：院生・卒研究生との卒業記念撮影（於：本学70号館）

3. 学外活動…『虎穴に入らずば、虎子を得ず』

私が学究の道に進んで以来、これまでに関わってきた主な研究活動の分野は、人間工学や人間環境学であった。特に、建築分野における人体動作寸法や身体周囲に必要なアキ寸法の計測では、独自の研究実績を築いてきた。その契機は、本学へ2度目に赴任してまもなく日本建築学会の建築設計資料集成「単位空間」の編纂に携わったことである。その編纂作業の中で、多くの大学研究者や実務で活躍する設計者らとの学術的な交流が生まれた。また、私を人間環境学の研究へ導いてくれたのは、私が日本建築学会大会で「日本と英国の子どもの体格比較」に関する発表をした際に、後ろから肩をたたいてくれた東京大学の高橋鷹志教授である。そのことがご縁となり、同教授の元へ、私学派遣研修員として1年間、国内留学をすることになった。その後、人間環境系の国際会議等に何度か誘われて、英語による論文発表に苦心することとなった。その最初は、国際人間環境系学会（IAPS）の英国マンチェスター大学であった。同大学では、前述の日新館で裸の付き合いをしたサイムズ教授が、笑顔で歓迎してくれた。IAPSの国際会議は、2年に一度の開催であるが、その後、ストックホルム（スウェーデン）、アイントホーヘン（オランダ）、ローマ（イタリア）、ライプツィヒ（ドイツ）などで開催された国際会議に参加した。国際会議に参加する場合、直前まで厄介な準備が必要となるが、毎回、新しい発見と出会いがあるのが嬉しい。

今から20数年前、私は、本学の海外派遣研究員制度により英国王立芸術大学（RCA）に1年間留学していたことがある。その時の帰朝報告は、当時の創建に詳しく掲載されているが、昨秋、国際会議で短期間ロンドンに出張した際、かつて住んでいたソールズベリー市を訪問した。同市は、ゴシックの大聖堂を中心として城壁に囲まれた中世の都市で、近郊に世界遺産のストーンヘンジ

がある。20数年ぶりの再訪であったが、まちの風景が、当時とほとんど変わっていなかったことに感動した。

さて、国内で関わった学外活動の中では、白河市から依頼された「白河城（通称、小峰城）三重櫓^{やぐら}の復元」がある。白河は、私が高校までを過ごした郷里で、多くの友人知人がいる。当時、私は、地域の異業種交流に参画していたことなどから、地元の民放テレビ局の生活番組にレギュラー出演していた。そんな時期に、当時の白河市長が、「何とせよ、小峰城を復元したい」と、私に懇願された。歴史的建造物の復元は、私の専門外のことであり、かなり躊躇したが、小峰城復元の話を知った市民の有志から建設に向けた基金が集まり始めた。彼らの熱意に押され、郷里のために引受けることを英断した。それから城郭建築の専門家を求めて、日本建築学会や旧文部省などを東奔西走した。その結果、会津若松城を外観復元した東工大の藤岡通夫教授に監修を依頼することができた。その間に、小峰城址の発掘調査、三重櫓の残された絵図面の検証などが進捗して、完全木造による復元が始動した。その実施設計は、日本建築研究所、施工は、大手ゼネコンが受注して、平成3年に落慶した。その後、前御門などが整備されて、小峰城址は、国史跡に指定された。3年前の東日本大震災では、小峰城址内の石垣がかなり被災したが、現在、国の援助により伝統的な工法で石垣の修復が進められている。

この他の学外活動では、福島県建築文化賞の審査員長として県内各地を視察したことや、JABEE（日本技術者教育認定機構）における建築分野の審査長として各地の国公立大学を視察したことなどが心に残っている。

4. 結び…『一期一会』

2011年3月11日午後2時46分に発生した東日本大震災は、私たちの生活や価値観を一変させた。その時、私は、研究室で机に向かって仕事をしていたが、周囲のロッカーなどが転倒する中、とっさに身を避けて怪我はなかった。その後、東京電力福島第一原発の爆発事故が発生して、避難指示や屋内退避などが次々と勧告されて、研究室の学生の安否も分からず不安な日々を過ごした。特に、大きな津波被害があった陸前高田に住む女子院生と連絡が取れず、とても心配したが、5月の連休明けに研究室に顔を見せた時は、飛び上がるほど嬉しかった。一昨年、私は、日本建築学会の東北支部長に就任して、学会関係者と沿岸の被災各地を巡視したが、大川小学校などの悲劇を目の当たりにして人間の命のはかなさと、人生における『一期一会』の大切さを痛感した。

結びに、在職中に諸々お世話になった教職員の皆様方、出会った多くの学生諸君に、心から深謝いたします。

本学科の今後ますますのご発展を祈念いたします。

（平成26年・早春の記）

創建総目録 (121~150号)

121号：2007. 3. 25発行 VOL. 41 No. 3

巻頭言：濱田幸雄教授「聞こえない音に耳をすまし、聞き
たくない音に 耳を傾ける」・1
原点回帰／創刊号巻頭言に学ぶ・2
新発見「ナスカの地上絵」：本多薫・3
博士（工学）学位論文・4
修士学位論文審査発表会プログラム・5
卒業研究発表会プログラム・6
創建総目録（No.101～No.120）・7
卒業式・修了式の受賞者／教室ニュース・8

122号：2007. 6. 28発行 VOL. 42 No. 1

巻頭言：若井正一教授「一期一会」・1
平成20年度卒業研究テーマ・2～3
教養講座講演会報告（伊東豊雄先生）・4
新任の先生：日比野巧，田中雅美，境孝，山添英順・5
ネットワークOB&OG⑩／新任紹介：倉持幸由・6～7
教室ニュース／日本建築学会東北支部研究報告会・7
教職員名簿・8

123号：2008. 1. 11発行 VOL. 42 No. 2

巻頭言：狩野勝重教授「[まちなみ風景]と[まちなみ景観]」・1
卒業生の活躍紹介・2～3
大学院特別講義報告（藤森照信先生）・4
在学生の活躍紹介・5
学術論文・学会発表・6
第50回日本大学工学部学術研究報告会・7
教室ニュース・8
卒業生執筆者紹介
森 浩（日本設計株）
大岡美紗恵（企業組合針谷建築事務所）
白澤 栄二（大成建設株）
山下 裕一（芝工業株）

124号：2008. 3. 25発行 VOL. 42 No. 3

巻頭言：千葉正裕教授「就職を意識して自分力を高めよ
う」・1
福島県建築文化賞ダブル受賞：阿部直人・2～3
学術研究報告会特別講演聴講報告（岡田恒男先生）・4
日本学術振興会特別研究員採用報告・5
修士学位論文／卒業研究発表会プログラム・6
卒業設計作品展・講評会／コンクール・展示会等出展作
品・7
卒業式・修了式の表彰者／学術論文／教室ニュース・8

125号：2008. 4. 26発行 VOL. 43 No. 1

平成19年度建築学科就職状況報告号
平成19年度建築学科就職状況の概要・1
都道府県別の求人企業数・就職者数・1
業種別就職者数と応募区分・2
就職先内訳・2～3
平成19年度卒業・修了生就職活動報告・4

126号：2008. 7. 10発行 VOL. 43 No. 2

巻頭言：出村克宣教授「ロハスな工学部」・1
平成21年度卒業研究テーマ・2～3
新任の先生：渡邊宏，富松太基・3
第37回日本大学工学部ヨーロッパ研修旅行報告・4～5
卒業設計作品展・6
日本建築学会東北支部研究報告会／教室ニュース・7
教職員名簿・8

127号：2008. 12. 15発行 VOL. 43 No. 3

巻頭言：浅里和茂教授「構造技術者のキャリアプラン」・1
卒業生の活動紹介・2～3
ネットワークOB&OG⑪：久保田幸正・4～5
海外派遣研究員報告・6～7
大学院特別講義報告（小野英哲先生）・8
第12回J I A東北建築学生賞最優秀賞受賞報告・9
設計活動の紹介：東秀音，堀正人・10
日本建築学会大会発表論文・11
学術論文／教室ニュース・12
卒業生執筆者紹介
吉田 明弘（アプルデザインワークショップ）
山際 憲博（株福田組）
野中 恒（鹿島建設株）
阿知波政史（東亜合成株）

128号：2009. 3. 25発行 VOL. 43 No. 4

巻頭言：倉田光春教授「頼んで頼まれ、迷惑を掛け合わ
ないと 友達になれない」・1
教育環境に思いを載せて：近藤道男・2～3
大学院特別講義報告・4
学術研究報告会・5
修士学位論文／卒業研究発表会プログラム・6
卒業設計作品展／コンクール・展示会等出展作品・7
卒業式・修了式の表彰者／教室ニュース・8

129号：2009. 4. 25発行 VOL. 44 No. 1

平成20年度建築学科就職状況報告号
平成20年度建築学科就職状況の概要・1
求人企業数・就職者数都道府県分布・1
業種別就職者数と応募区分・2
就職先内訳・2～3
平成20年度卒業・修了生就職活動報告・4

130号：2009. 7. 10発行 VOL. 44 No. 2

巻頭言：若井正一教授「青春讃歌」・1
平成21年度カリキュラム・2～3
新任の先生（大学院）：濱尾博文・3
平成22年度卒業研究テーマ・4～5
新任の先生：齋藤俊克，栗岡均・5
博士（工学）学位論文・6～7
ネットワークOB&OG⑫：栗原隆・8～9
在校生の活躍紹介・10

- スタンフォード大学からの便り 第1便・10
 学術論文・研究発表／教室ニュース・11
 教職員名簿・12
- 131号：2009. 12. 10発行 VOL. 44 No. 3**
 巻頭言：若井正一教授「ベルリンの壁」・1
 卒業生の活躍紹介・2～3
 設計活動の紹介：上西明，平野由朗・4
 平成21年度公務員内定者の報告・5
 構造設計インターンシップ体験報告・6
 スタンフォード大学からの便り 第2便：鈴木裕介・7
 第13回J I A東北建築学生賞受賞報告・8
 施工現場見学会／高校コンペ報告／新任の先生：石井久克・9
 第52回日本大学工学部学術研究報告会・10
 学術論文・学会発表・11
 教室ニュース・12
 卒業生執筆者紹介
 岸 賢（㈱レーモンド設計事務所）
 渡辺 正光（大成建設㈱）
 小林 章浩（㈱大林組）
 宮川 美穂（グレースケミカルズ㈱）
- 132号：2010. 3. 25発行 VOL. 44 No. 4**
 巻頭言：狩野勝重教授「住環境創生大学校須賀川」いま
 発信」・1
 子どもたちの健全な成長を願って：陽田秀夫・2～3
 大学院特別講義報告（西出和彦先生）・4
 大学院特別講義報告（吉野泰子先生）・5
 修士学位論文／卒業研究発表会プログラム・6
 卒業設計作品展／展示会等出展作品・7
 スタンフォード大学からの便り 第3便・7
 卒業式・修了式の表彰者／学術論文／教室ニュース・8
- 133号：2010. 5. 15発行 VOL. 45 No. 1**
 平成21年度建築学科就職状況報告号
 平成21年度建築学科就職状況の概要・1
 求人企業数・就職者数都道府県分布・1
 業種別就職者数と応募区分・2
 就職先内訳・2～3
 平成21年度卒業・修了生就職活動報告・4
- 134号：2010. 7. 1発行 VOL. 45 No. 2**
 巻頭言：出村克宣教授「本物を学ぼう」・1
 平成23年度卒業研究テーマ一覧・2～3
 アーキテクトコース設計演習・3
 第39回日本大学工学部ヨーロッパ研修旅行報告・4～5
 現場見学会報告／教室ニュース／新任の先生：野崎淳夫・6
 在校生の活躍紹介／学術論文／発表論文・7
 教職員名簿・8
- 135号：2010. 12. 10発行 VOL. 45 No. 3**
 巻頭言：千葉正裕教授「工学部の強みを活かそう」・1
 卒業生の活躍紹介・2～3
 大学院特別講義報告（積田洋先生）・4
 大学院特別講義報告（富田佳宏先生）・5
- 第53回日本大学工学部学術研究報告会・6
 学術論文／日本建築学会大会発表論文・7
 新任の先生：早野由美恵，松下房恵／教室ニュース・8
 卒業生執筆者紹介
 伏野 隆（㈱東急設計コンサルタント）
 森田 健一（鹿島建設㈱）
 岡崎 剛久（トステム㈱）
 高橋 雄樹（横手市役所）
- 136号：2011. 3. 25発行 VOL. 45 No. 4**
 巻頭言：浅里和茂教授「クラブトンの眼鏡」・1
 Spirit Of Place：渡邊宏・2
 受賞作品紹介：陽田秀夫，吉田明弘・3
 博士（工学）学位論文・4
 在校生等の活躍紹介・5
 修士学位論文／卒業研究発表会プログラム・6
 卒業設計作品展／展示会等出展作品／学会発表・7
 卒業式・修了式の表彰者／教室ニュース・8
- 137号：2011. 5. 20発行 VOL. 46 No. 1**
 東北地方太平洋沖地震対応特別号
 学科主任あいさつ：浅里和茂・1
 学生ボランティア活動報告・1
 平成22年度進路先一覧（速報版）・2
 平成22年度就職活動報告・3
 新任の先生：速水清孝，大山亜紀子／教職員名簿・4
- 138号：2011. 7. 1発行 VOL. 46 No. 2**
 平成22年度建築学科就職状況報告号
 平成22年度建築学科就職状況の概要・1
 求人企業数・就職者数都道府県分布・1
 業種別就職者数と応募区分・2
 就職先内訳・2～3
 平成22年度卒業・修了生就職活動報告・4
- 139号：2011. 7. 15発行 VOL. 46 No. 3**
 巻頭言：倉田光春教授「震災と為になる話」・1
 平成24年度卒業研究テーマ・2～3
 栗岡均先生日本建築学会賞受賞・3
 Parisからの1通のメール：浅見和宏・4
 東日本大震災・復興に向けて・5
 新任の先生：二瓶博厚，秋月直道／倫敦雑記：野内英治・6
 学術論文・発表論文／教室ニュース・7
 教職員名簿・8
- 140号：2011. 12. 10発行 VOL. 46 No. 4**
 巻頭言：若井正一教授「ハーメルンの笛吹き」・1
 卒業生の活躍紹介・2～3
 日本建築学会賞（技術）受賞記念：栗岡均・4～5
 中期海外派遣研究報告会：野内英治・6～7
 構造設計インターンシップ体験報告・8
 第15回J I A東北建築学生賞／造園学会WS／ロハスの家3・9
 第54回日本大学工学部学術研究報告会・10
 日本建築学会大会発表論文／学術論文・11
 教室ニュース・12

卒業生執筆者紹介

岡本 卓実 (株教育施設研究所)
宮口 規章 (株福田組)
長井佐千子 (株山下ピー・エム・コンサルタンツ)
鈴木 直人 (須賀川市役所)

141号：2012. 3. 25発行 VOL. 46 No. 5

巻頭言：濱田幸雄教授「CCD, 技術者の教訓」・1
震災復旧・復興に向けた活動紹介・2
博士(工学)学位論文・3
大学院特別講義聴講報告(永幡幸司先生)・4
大学院特別講義聴講報告(増田光一先生)・5
修士学位論文発表会プログラム・6
卒業研究発表会プログラム/教室ニュース・7
卒業式・修了式の表彰者/学会発表/卒業設計・8

142号：2012. 6. 6発行 VOL. 47 No. 1

平成23年度建築学科就職状況報告号
平成23年度建築学科就職状況の概要・1
求人企業数・就職者数都道府県分布・1
業種別就職者数と応募区分・2
就職先内訳・2～3
平成23年度卒業・修了生就職活動報告・4

143号：2012. 7. 12発行 VOL. 47 No. 2

巻頭言：出村克宣教授「プロになるむずかしさ」・1
平成25年度卒業研究テーマ・2～3
Letter from Delft vol. 1 : Sanjay PAREEK・3
復興に向けた活動報告①②・4～5
新人公務員からのメッセージ・5
白水阿弥陀堂見学報告ほか/新任の先生：大内富夫・6
学術論文・発表論文/教室ニュース・7
教職員名簿・8

144号：2012. 12. 20発行 VOL. 47 No. 3

巻頭言：千葉正裕教授「建設業界の動向と就職戦線」・1
卒業生の活躍紹介・2～3
Letter from Delft vol. 2 : Sanjay PAREEK・4
第16回J I A東北建築学生賞ほか/新任の先生：鍋田知宏・5
第55回日本大学工学部学術研究報告会・6
日本建築学会大会他発表論文・7
学術論文/教室ニュース・8
卒業生執筆者紹介
竹ヶ原 雄 (株佐藤総合計画)
横尾 忠幸 (清水建設株)
壁下瑛里子 (スウェーデンハウス株)
山崎 拓 (長野県庁)

145号：2013. 3. 25発行 VOL. 47 No. 4

巻頭言：浅里和茂教授「ストーンズのベーシスト」・1
復興に向けた活動紹介③・2
博士(工学)学位論文・3

大学院特別講義聴講報告(大原一興先生)・4
大学院特別講義聴講報告(川島晃先生)・5
日本人建築学生のインド留学記①/教室ニュース・6
修士学位論文発表会/卒業研究発表会プログラム・7
卒業式・修了式の表彰者/学術発表/卒業設計・8

146号：2013. 5. 17発行 VOL. 48 No. 1

平成24年度建築学科就職状況報告号
平成24年度建築学科就職状況の概要・1
求人企業数・就職者数都道府県分布・1
業種別就職者数と応募区分・2
就職先内訳・2～3
平成24年度卒業・修了生就職活動報告・4

147号：2013. 7. 19発行 VOL. 48 No. 2

巻頭言：湯本長伯教授「想像とデザインを軸に幅広い分野を研究」・1
平成26年度卒業研究テーマ・2～3
新任の先生：湯本長伯, 鈴木勇人・3
長期海外派遣報告：Sanjay PAREEK・4～5
日本大学工学部建築学科の思い出・6～7
第17回建築史学会賞受賞記念：速水清孝・8
日本人建築学生のインド留学記②：三浦洵・9
アーキテクトコース見学会/現場見学会・10
学術論文・発表論文/教室ニュース・11
教職員名簿・12

148号：2013. 12. 12発行 VOL. 48 No. 3

巻頭言：濱田幸雄教授「[ロハス工学]と建築学」・1
手塚貴晴氏講演会聴講報告・2～3
設計を考えるシンポジウム聴講報告・4
第17回J I A東北建築学生賞/笠間稲荷コンペ・5
安積黎明高校現場見学会ほか/インド留学記③・6
日本建築学会大会発表論文ほか・7
学術論文/教室ニュース・8

149号：2014. 3. 25発行 VOL. 48 No. 4

巻頭言：出村克宣教授「多くのことを学んでほしい」・1
学術研究報告会特別講演聴講報告(藤森照信先生)・2
第56回日本大学工学部学術研究報告会・3
大学院特別講義聴講報告(石田秀輝先生)・4
大学院特別講義聴講報告(遠藤勝敏先生)・5
修士学位論文発表会/卒業研究発表会プログラム・6
学術発表/教室ニュース・7
卒業式・修了式の表彰者/卒業設計作品展・8

150号：2014. 3. 25発行 VOL. 48 No. 5

巻頭言：浅里和茂教授「ラフマニノフの2番」・1
150号に寄せて：倉田光春教授「最後の授業」・2～3
150号に寄せて：若井正一教授「日に日に新たに…
～原点回帰～」・4～5
創建総目録(121～150号)・6～8